

## 第4回総合教育会議議事録

- 日時 令和5年1月6日（金）午後2時00分～4時50分
- 場所 小野市役所 5階 特別会議室
- 出席者
- |       |            |         |
|-------|------------|---------|
| 市長    | 蓬 萊 務      |         |
| 教育長   | 橋 本 浩 明    |         |
| 教育委員  | 河 嶋 栄 里 子  |         |
| 教育委員  | 藤 本 真 理    |         |
| 教育委員  | 養 父 雄 一    |         |
| 教育委員  | 石 原 友 紀    |         |
| 事務局職員 | 教育管理部長     | 入 江 一 與 |
|       | 教育指導部長     | 藤 原 正 伸 |
|       | 教育総務課長     | 近 澤 博 文 |
|       | いきいき社会創造課長 | 松 田 祐 司 |
|       | スポーツ振興課長   | 井 上 雅 規 |
|       | 教育総務課      | 小 畑 祐 子 |
- 傍聴者 8名
- 

### 1. 開 会（教育総務課長）

### 2. 市長あいさつ

ただいまご紹介いただきました、小野市長の蓬萊でございます。小野市総合教育会議の開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

ご承知のとおり、行政と教育委員会の責任体制あるいは管理体制をどのように明確化して確立していくかというところから、法律が改正され、総合教育会議が開催されるようになりました。小野市においては、今回4回目を迎えますが、すでに以前より総合教育会議同等以上の会議体をやっておりました。具体的に申し上げますと、一定のフォーマットに基づく「報告・連絡・相談シート（報連相シート）」により、市長部局と教育部局が日頃から連携を取りながら情報共有し、それを一元化し水平展開する仕組みを確立させています。

この「報連相シート」は、教育行政だけでなく、市庁舎内の組織、北播磨総合医療センター、クリーンセンターにおける加西市や加東市との北播磨広域連携等においても機能しております。単に情報を共有してお互いに理

解し合うだけではなく、それを水平展開することで、全く関係のないセクションでも「自分の組織に当てはめたらどのようなことを認識しなければならないのか」という考え方を明確化するために構築しています。

また、学校現場においては、職員会議や職朝会議等の議事録を記録として残し、それをデータベース化することで、例えば、何年前の何月何日に学校現場でどういう報告が挙がって、誰がどういう対応をしたかがすぐさまわかる仕組みを徹底しています。

そして、学校現場だけでなく教育委員会や行政において「Plan・Do・Check・Action」、つまり計画を立てて実行し、それをどのように評価・検証し、どう次に繋げていくかという「P D C A」のマネジメントサイクルが回り続けていることが重要です。

総合教育会議の本質は、専門的な教育の有り様、学校現場の本質の問題、マネジメント力の問題等が議論され、それについて組織として対応することによって問題が解決されることであると、私は考えています。

難しいことを議論するのではなく、当たり前のことを当たり前の仕組みシステムにし、そしてその中から今の子どもたちに合った、あるいはこれからの情勢を考慮したうえで、改善すべきは改善し、そして検証しながら、また元に戻しても構わないし、あるいはさらに変えていってもよい、絶えず変化し続ける創造的な議論をする必要があります。

以前も申し上げましたが、私はヨーロッパを周って、海外の教育状況や環境問題について視てきました。日本との大きな違いは、「職員室は先生が休む場所であり、先生が仕事をする場所ではない」ということ、「生徒がある一定の基準に達していれば、それ以上の教育を教える必要はない」ということです。そのため、先生は1クラス20人程の生徒のうち、基準に達していない生徒のみ集中的に指導しています。

日本では、生徒数が減れば人間形成のための集団教育ができず、社会性が失われるといいます。それはおかしい話で、それよりも学校を統合し人数を増やしたところで、トップのマネジメントが行き届くのか、私は疑問に思います。

小野市の教育行政は、人数が少ない中でも、各拠点において教育をしながら社会性を養うことが本質であると考えていることが、他市と基本的に違います。学校統合においては、人数を集中させることに利点もありますが、それが私たちの進むべき道だとは考えていません。子どもたちは、地域と共に生き、地域の中で育ち、地域との関わりをもって人間形成されていきます。まさに生きる力はそういうことだと思っています。

「小野市流」の教育には、当然、強みもあれば弱みもあります。教育大綱を議論するにあたって、他市がやっているからと画一的、横並びではなく、地域特性をどう生かすかを考えながら、「小野市流」の教育を、自信を持って遂行していくための方向性を示していただきたい。

教育の力というのは、即効性が低くすぐには結果が出ないため、長い歴史、長い人生の中で見ていくことが必要です。何度も言いますが、1セッションだけでなく組織でもって、そして皆さんの知恵を活かして、タイムリーな対応をしていく、これがいわゆる総合教育会議の本質だということをご理解いただきまして、ご挨拶とさせていただきます。

### 3. 教育委員自己紹介

### 4. 協議事項

#### (1) 「教育施策の大綱」の改訂について

##### 改訂の目的、考え方

- ①教育大綱は、本市の教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標（理念）や施策の根本となる方針を定めるもの。
- ②現大綱は、平成27年度に策定したもので、上位計画となる市の総合ビジョン改訂後のタイミングに合わせて改訂を行う。
- ③現大綱の基本理念や方向性は引き続き継承し、具体的な実施施策について環境変化を踏まえ、必要な見直しを実施する。

##### 改訂後の大綱の概要

###### ①基本理念

「脳科学理論」を基軸とした各人の個性を活かした全員活躍型による小野市独自の教育体系の推進

###### ②主な変更点

- ・小野市流G I G AスクールプロジェクトによるI C T教育の充実
- ・校務支援システムを活用した情報共有・一元化のさらなる強化
- ・インクルーシブ教育の体制整備と合理的配慮の検討と推進
- ・地域特性を踏まえた新しい部活動のあり方の検討

###### ③基本目標

- ・激動の時代に柔軟に対応できる自立した人づくり
- ・安全・安心な学校環境のさらなる整備

- ・その他の重点施策（16か年教育による切れ目のない教育支援体制）  
（上記項目について、教育管理部長がパワーポイントにてプレゼンテーション）

#### 【主な質疑・意見】

蓬萊市長 議論を重ねた上での改訂ということではありますが、改めて議論したい内容や追加提案はありませんか。

河嶋委員 前の教育大綱と比べると、学力ももちろん大事なことですが、「人を大事にする」、「人としてどう育てるか」というところに重きをおいている点が、これからの時代に大切なことだと思います。

私が関わっている分野では、多様性というところで外国の子どもたちが増えてきています。

小野市には、11月現在で1,141人の外国の方が住んでいます。その半数はベトナム人の技能実習生で3年～5年で帰国してしまいます。しかし、彼らも在留資格を変更し日本への滞在を延長し、そのまま住み続けることもありますし、家庭を持って小野市に住み、子どもを育てる方も多くなっています。

また、小野市には外国籍のルーツを持つ子どもたちが35名ほどいます。さらに、片方の親が外国籍のルーツを持つ子どもたちも増えていきます。

しかし、帰ってしまうからという理由で、その場限りの一時的な支援で終わってしまい、情報の共有もあまりない中、継続的なサポートができずに、学校単位で先生方が困っている姿を目にしています。そういった若い外国の方々も、安全・安心に子育てできるまちづくりのために、さまざまな連携のもと、継続して彼らを見守る体制作りが必要だと思っています。

蓬萊市長 多様性への対応という事で、新たな追加提案をいただきました。具体的には、外国人への教育のあり方、あるいは、日本人と外国人が教育の中でどのように関わっていくか等、そういったことを大綱の中にどう織り込むかということですね。この件に関してのご意見、または追加提案等があればお願いします。

養父委員 別途意見になるかもしれませんが、長い人生の中で、余暇をどれだけ楽しめるかということが、学校を卒業してからも大切な

ことだと思えます。短歌フォーラムやエクラでの文化的な活動もあるのですが、さらに美術や音楽等、文学を楽しめる市民が増えるような考え方も必要ではないかと思えます。

もう1点、脳科学を学習していく中で、地域のリーダーとなって地域を支える人材と、逆に大きく外の世界へ羽ばたくような人材が育ってほしいと思っています。

蓬萊市長 貴重なご意見をいただきました。生涯教育も含めて、多くの世代に対して芸術文化に触れるという観点をどのように織り込むのかということ、教育の現場でリーダーの養成をどのようにしていくのかということ、グローバルに活躍できるような人材育成をどう織り込むのかという3点ですね。確かに、子どもの頃から育成できるような環境になっていれば、もっと違う小野市の魅力が出てくるのではないかと思えます。

他に意見はありませんか。

藤本委員 「自立した人づくり」が最終目標でありますので、脳科学を軸として、自分で考えて行動できる自立した子どもや大人が育ってほしいと思っています。

蓬萊市長 みなさんが言われたことは、すべて大綱の中には織り込んでありますので、特に重要視してクローズアップして、それを戦略的に実践してほしいという強化の意味合いでよろしいでしょうか。

河嶋委員 はい。

養父委員 はい。

藤本委員 はい。

蓬萊市長 他に何かございませんか。

教育長 教育大綱とは、基本的に教育の方針を定めるものなのですが、他市と比較しても、こんな詳しい教育大綱はありません。小野市の場合は、脳科学理論を基軸とした教育をはっきりと打ち出し、引き継いでいくためにこういう形にしています。今回の小野市の教育大綱の改訂は、目的を明確にした一つのチャレンジだと考えていただければよいと思えます。ここにも書いてありますとおり、様々な課題がありますが、脳科学理論を基軸として邁進していきたいと考えています。

## (2)意見交換

蓬萊市長 子どもたちのことで何か気になる点はありますか。

石原委員 特に気になることは、スマートフォンのことと、変化が差し迫っている部活動のことです。

部活動については、上の子どもと下の子どもで、全く違ってきています。学校で、子どもたちにどれぐらいのことを伝えてくれているのかが心配です。

スマートフォンについては、保護者の活動等で「ネットの危険性」の講演会を開催していただいているのですが、対象が高学年のみとなっています。しかしながら、低学年の子どもについても兄弟がいればネットに触れる環境はあると思います。

低学年の子どもたちに「ネットの危険性」について伝えることは難しいと思いますが、先手先手で何か伝えられる機会がほしいと考えています。

蓬萊市長 今日のプレゼンに際し、①部活動と先生の働き方改革における対応、②生徒数が減少する中での学校運営、③情報化戦略に対する弊害の克服という3つの課題があります。

これからの情報化戦略の世の中においては、例えば、小学1年生でも中学3年生でも同じ情報を得ることができます。学習指導要領についても、段階を超えた形で情報が入り自主的に学ぶことができるようになれば、段階的な教育のシステムは崩壊していきます。

情報化戦略における身体的な弊害の問題と、世代を超えた教育に対する歯止めと、垣根の無くなった仕組みの中でどのような指導をしていくかが問題です。

また、私はその課題において「環境問題」と「プール戦略」と「部活動の専門化」という案を出しています。

具体的には、加西市と加東市と小野市でやっているごみ処理センターから出てくる熱で自家発電し、その排熱を利用し温水プールを作り、学校とプールの2つの拠点にスクールバスを運行し、年間を通してスペシャリストによる水泳実習を行います。その結果、全学校のプールに係る経費が削減され、先生が水泳を教えることも無くなります。

また、指導者として能力のある方や複数の部活動を指導する部活動専門の先生を積極的に採用し、指導者と場を抜本的に作り

- 直すことによって、先生の負担を減らすことも考えています。
- 石原委員 中学生の生活の中で、部活動は本当に大きな存在です。学校内で部活動ができることは有意義ですが、先生の大変さや、人数維持の難しさも感じています。そのため、部活動を存続するために集約されるのも仕方がないと思っています。
- 蓬萊市長 国は、部活動と指導を先生方から切り離し、地域社会や専門家へ移行することを明解にしています。そのため、早急に議論をし、納得できるような小野市の方向性を市民にも開示しながら意見を聞くことに着手しないと、大きな壁を残すことになると思います。
- 河嶋委員 部活動に関しては、働き方改革の一環で、週に1日休み、3時間以内、週末は土日のどちらか1日休みと決められたので、先生方もずいぶん楽になったのではないかと思っていたのですが、若い世代の先生方は、私たちの世代の先生方とは違ってきているのでそこは考慮しないといけないと思っています。
- しかし、県大会や全国大会があれば力を入れたいし、逆にレクリエーション的な役割ですということであれば、部活動のあり方自体を決めてから方向性を決めないと中途半端になってしまうのではないかと考えます。また、指導者に関しても、地域の方なら誰でも良いというわけではないので、どのように人選するのかということも重要です。
- 養父委員 私の時代は「部活で人間形成をする」、「部活もできない者に授業はできない」等とよく言われました。一方で、教育実習の時には授業作りの強化しかありませんでした。教師自体も、「授業で人間形成をする」という意識改革が必要なのではないかと思います。
- また、部活の数をある程度減らして、部活動の日というのを作り、例えば、野球をやりたい場合は部活動の日小野中に集まるなど、各校毎ではなく市内全体で部活動を行う、スペシャリスト（教師も含む）が教える等、学校毎に毎日やっている今の形を変えていかなければならないと思います。
- 蓬萊市長 部活動は、危険リスクの問題があるため、今は先生が管理をしていますが、そこまで関与しなければならないのかという問題もあるのではないかと思います。自立した部活動として生徒たちに任せることもあってよいのではないかと思います。

しかし、以前、マラソンで有名な西脇工業高校の渡辺監督の話  
を聞いて、生徒たちが自立して部活動を行うことと、プロフェ  
ッショナルな能力を持った指導者の元で部活動を行うこととで  
は、違いがあることを感じています。

また、身体・肉体能力ともに高める能力を持った方に指導を仰  
ぐ環境を作るということは、人格形成にも大きな影響を及ぼし  
ます。そういうことから、部活を分離独立させ、先生の負担を  
軽減する拠点づくりをやってみることも一つのチャレンジであ  
ると思います。

この3つの提案については、これからの時代徐々に出てくる問  
題でありますので、ある程度の方向性を決めて、そこから派生  
するデメリットを克服するために何をすべきかを議論し展開す  
る方法で進めていただきたいと思います。

## 5. 閉 会（教育総務課長）

本日、審議いただいた「教育施策の大綱」の改訂については、このあと、  
市のホームページ等でパブリックコメントに付し、意見公募手続きを経て、  
最終確定する予定としております。

それでは、これをもちまして、第4回小野市総合教育会議を閉会させて  
いただきます。本日は、ご多忙のなかご出席いただきありがとうございました。